

製品評価技術基盤機構共通基盤情報システム
IaaS 仮想
サーバ要件一覧

独立行政法人製品評価技術基盤機構

令和 5 年 10 月

[目次]

1. 一般業務システム用仮想サーバ	4
1.1 外部公開サーバセグメント	4
1.1.1 CMSWEB サーバ①	4
1.1.2 CMSWEB サーバ②	5
1.2 一般サーバセグメントプール	6
1.1.1. CMS サーバ.....	6
1.1.2. CMS ステージングサーバ.....	7
1.1.3. 財務会計システム本番 Web/AP サーバ①.....	8
1.1.4. 財務会計システム本番 Web/AP サーバ②.....	9
1.1.5. 財務会計システムテスト Web/AP サーバ.....	10
1.1.6. 財務会計・旅費システム本番 DB サーバ①.....	11
1.1.7. 財務会計・旅費システム本番 DB サーバ②.....	12
1.1.8. 財務会計・旅費システムテスト DB サーバ.....	13
2. バイオテクノロジーセンター用仮想サーバ	14
2.1 外部公開サーバセグメント	14
2.1.1. オンライン依頼システム本番 AP サーバ.....	14
2.1.2. バイオアプリケーション本番サーバ.....	15
2.2 一般サーバセグメントプール	16
2.2.1. オンライン依頼システム本番 DB サーバ.....	16
2.2.2. オンライン依頼システムテスト AP/DB サーバ.....	17
2.2.3. 生物資源管理システム内部アプリケーション(本番・テスト)AP/DB サーバ[新規]	18
2.2.4. バイオアプリケーションテストサーバ	19
2.2.5. バイオデータベース本番サーバ.....	20
2.2.6. バイオデータベーステストサーバ.....	21
3. 製品安全センター用仮想サーバ	22
3.1 外部公開サーバセグメント	22
3.1.1. 製品安全センター公開用本番サーバ①	22
3.1.2. 製品安全センター公開用本番サーバ②	23
3.2 一般サーバセグメントプール	24

3.2.1.	製品安全センター公開用サーバテスト	24
3.2.2.	調査情報統括検索システム用本番サーバ.....	25
3.2.3.	調査情報統括検索システム用テストサーバ.....	26
3.2.4.	RPA 専用仮想端末用サーバ[新規].....	27
4.	認定センター用仮想サーバ.....	28
4.1	外部公開サーバセグメント	28
4.1.1.	認定申請審査業務システム Web サーバ.....	28
4.2	一般サーバセグメントプール	29
4.2.1.	認定データベース本番サーバ.....	29
4.2.2.	認定申請審査システム AP/DB サーバ	30
4.2.3.	認定データベース運用保守用サーバ.....	31
4.2.4.	認定申請審査システム保守用 Web/AP/DB サーバ	32
5.	化学物質管理センター用仮想サーバ.....	33
5.1	外部公開サーバセグメント	33
5.1.1.	J-CHECK 公開用 WEB サーバ.....	33
5.1.2.	PRTR 行政用 AP サーバ.....	34
5.1.3.	PRTR 事業者用 AP サーバ.....	35
5.1.4.	PRTR 届出作成支援システム AP/DB サーバ.....	36
5.2	一般サーバセグメントプール	37
5.2.1.	J-CHECK 公開用 DB サーバ.....	37
5.2.2.	J-CHECK イントラ用サーバ.....	38
5.2.3.	PRTR DB サーバ.....	39
5.2.4.	PRTR 問い合わせ対応用 AP サーバ	40
5.2.5.	PRTR 問い合わせ対応用 DB サーバ.....	41
5.2.6.	内容照会用サーバ.....	42
5.2.7.	3 省 DB (内部版) 用サーバ.....	43
5.2.8.	その他業務用サーバ	44
6.	国際評価技術本部用仮想サーバ.....	45
6.1	外部公開サーバセグメント	45
6.1.1.	詳報公表システム用 AP サーバ.....	45
6.1.2.	詳報作成支援システム用 AP サーバ	46
6.1.3.	詳報管理システム用 AP サーバ.....	47
6.2	一般サーバセグメントプール	48
6.2.1.	詳報管理システム用 DB サーバ.....	48

6.2.2.	事故実機調査システム用 AP/DB サーバ.....	49
--------	----------------------------	----

1. 一般業務システム用仮想サーバ

1.1 外部公開サーバセグメント

1.1.1 CMSWEB サーバ①

項 目	内 容
a. 機能	
用途	CMS の Web サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 75 相当以上を割り当てられること（「参考 24. スコア換算法」に示す換算法で計算した SPECrate2017_int_peak 又は CoreMark の値を満たすことでもかまわない。CPU の要件については以下同様）
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	93GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム（OS）	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ③ Perl を搭載すること (RHEL9 であるため 5.32 を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼動監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	（特になし）

1.1.2 CMSWEB サーバ②

項 目	内 容
a. 機能	
用途	CMS の Web サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 75 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	165GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ③ Perl を搭載すること (RHEL9 であるため 5.32 を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

1.2 一般サーバセグメントプール

1.1.1. CMS サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	CMS サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 100 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	380GB 以上を割り当てられること ただし、CMS ステージングサーバと共存させる場合には、CMS ステージングサーバのディスク容量 328GB を上記に追加して割り当てること。
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼動監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

1.1.2. CMS ステージングサーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	CMS ステージングサーバとして使用する。 ただし、CMS ステージングサーバは CMS サーバと共存させてもよい。その場合 CMS ステージングサーバを構築する必要はない。
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 100 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	328GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

1.1.3. 財務会計システム本番 Web/AP サーバ①

項 目	内 容
a. 機能	
用途	財務会計システムの AP サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	200GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、2 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

1.1.4. 財務会計システム本番 Web/AP サーバ②

項 目	内 容
a. 機能	
用途	財務会計システムの AP サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	200GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、2 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

1.1.5. 財務会計システムテスト Web/AP サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	財務会計システムの検証用 AP サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	170GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、2 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

1.1.6. 財務会計・旅費システム本番 DB サーバ①

項 目	内 容
a. 機能	
用途	財務会計・旅費システムの DB サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 200 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	24GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	655GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、2 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	Oracle Database Standard Edition 2 を搭載すること
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

1.1.7. 財務会計・旅費システム本番 DB サーバ②

項 目	内 容
a. 機能	
用途	財務会計・旅費システムの DB サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 200 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	24GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	655GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、2 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	Oracle Database Standard Edition 2 を搭載すること
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

1.1.8. 財務会計・旅費システムテスト DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	財務会計・旅費システムの検証用 DB サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 200 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	24GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	655GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	Oracle Database Standard Edition 2 を搭載すること
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

2. バイオテクノロジーセンター用仮想サーバ

2.1 外部公開サーバセグメント

2.1.1. オンライン依頼システム本番 AP サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	オンライン依頼システムを稼働させる
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	135GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ③ PostgreSQL (クライアントのみ) を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼動監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

2.1.2. バイオアプリケーション本番サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	生物資源データプラットフォーム、生物資源統合検索アプリケーション、微生物有害情報データベース、微生物遺伝子機能検索データベース、二次代謝産物合成遺伝子データベースおよびアジアコンソーシアムウェブサイトを稼働させる
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 150 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	348GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ③ PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ④ PostgreSQL (クライアントのみ) を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム移動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

2.2 一般サーバセグメントプール

2.2.1. オンライン依頼システム本番 DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	オンライン依頼システム用のデータベースを稼働させる
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	522GB 以上を割り当てられること 別途バックアップ領域として 10GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

2.2.2. オンライン依頼システムテスト AP/DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	オンライン依頼システムのテスト用サーバとして使用する。
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	1.064TB 以上を割り当てられること 別途バックアップ領域として 10GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ③ PostgreSQL (クライアントのみ) を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

2.2.3. 生物資源管理システム内部アプリケーション(本番・テスト)AP/DB サーバ[新規]

項 目	内 容
a. 機能	
用途	生物資源管理システム内部アプリケーションを稼働させる
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	150GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応)を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ③ PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

2.2.4. バイオアプリケーションテストサーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	生物資源データプラットフォーム、生物資源統合検索アプリケーション、微生物有害情報データベース、微生物遺伝子機能検索データベース、二次代謝産物合成遺伝子データベースを稼働させる
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 150 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	253GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ③ PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ④ PostgreSQL (クライアントのみ) を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム移動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

2.2.5. バイオデータベース本番サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	生物資源データプラットフォーム用データベース、微生物有害情報データベース用データベース、微生物遺伝子機能検索データベース用データベースを稼働させる
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 150 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	1.579TB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

2.2.6. バイオデータベーステストサーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	生物資源データプラットフォーム用データベース、微生物有害情報データベース用データベース、微生物遺伝子機能検索データベース用データベースを稼働させる
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 100 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	1.319TB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

3. 製品安全センター用仮想サーバ

3.1 外部公開サーバセグメント

3.1.1. 製品安全センター公開用本番サーバ①

項 目	内 容
a. 機能	
用途	CGI サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 25 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	87GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ② Perl を搭載すること (RHEL9 であるため 5.32 を想定) ③ PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定) ④ Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ⑤ java (JDK) (Red Hat サポートの OpenJDK) を搭載すること (RHEL9 であるため 17 を想定) ⑥ Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ⑦ OpenSSL を搭載すること (RHEL9 であるため 3.0 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼動監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

3.1.2. 製品安全センター公開用本番サーバ②

項 目	内 容
a. 機能	
用途	CGI サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 25 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	87GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ② Perl を搭載すること (RHEL9 であるため 5.32 を想定) ③ PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定) ④ Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ⑤ java (JDK) (Red Hat サポートの OpenJDK) を搭載すること (RHEL9 であるため 17 を想定) ⑥ Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ⑦ OpenSSL を搭載すること (RHEL9 であるため 3.0 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼動監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

3.2 一般サーバセグメントプール

3.2.1. 製品安全センター公開用サーバテスト

項 目	内 容
a. 機能	
用途	CGI サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	87GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ② Perl を搭載すること (RHEL9 であるため 5.32 を想定) ③ PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定) ④ Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ⑤ java (JDK) (Red Hat サポートの OpenJDK) を搭載すること (RHEL9 であるため 17 を想定) ⑥ Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ⑦ OpenSSL を搭載すること (RHEL9 であるため 3.0 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼動監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

3.2.2. 調査情報統括検索システム用本番サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	調査情報統括検索システム用のサーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU・GPU	SPECint_rate2006 が 75 相当以上を割り当てられること 65TFLOPS 以上の FP16/FP32 混合精度積和演算性能を有すること 8TFLOPS 以上の単精度演算性能を有すること
イ メモリ	40GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	1.76TB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	① Microsoft SQL Server 2022 を搭載すること ② Microsoft IIS を稼働させること
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

3.2.3. 調査情報統括検索システム用テストサーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	製安 C 業務支援システム用のサーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU・GPU	SPECint_rate2006 が 75 相当以上を割り当てられること 65TFLOPS 以上の FP16/FP32 混合精度積和演算性能を有すること 8TFLOPS 以上の単精度演算性能を有すること
イ メモリ	40GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	1.598TB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	① Microsoft SQL Server 2022 を搭載すること ② Microsoft IIS を稼働させること
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

3.2.4. RPA 専用仮想端末用サーバ[新規]

項 目	内 容
a. 機能	
用途	仮想端末構築用のサーバとして使用する。 2 台分の仮想端末を構築し、双方にリモート接続可能な環境。
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 100 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	24GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	300GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること ○仮想端末 2 台分が運用できること。※2 ユーザーではない。 OS : Windows10 RAM メモリ : 12GB (最小 8 GB) CPU : SPECint_rate2006 が 50 相当以上 ※インターネットへ接続できること
イ ミドルウェア	① Microsoft SQL Server 2022 を搭載すること ② Microsoft IIS を稼働させること
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

4. 認定センター用仮想サーバ

4.1 外部公開サーバセグメント

4.1.1. 認定申請審査業務システム Web サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	認定申請審査業務システムの本番用 Web サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 25 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	61GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼動監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

4.2 一般サーバセグメントプール

4.2.1. 認定データベース本番サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	認定 DB の本番サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	922GB 以上を割り当てられること 別途バックアップ領域として 50GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	① Microsoft SQL Server 2022 を搭載すること ② java (Red Hat サポートの OpenJDK) を搭載すること (RHEL9 であるため 17 を想定) ③ Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

4.2.2. 認定申請審査システム AP/DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	認定申請審査業務システムの本番用 AP/DB サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 75 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	24GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	542GB 以上を割り当てられること 別途データ領域として 1.5TB、バックアップ領域として 50GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① java (Red Hat サポートの OpenJDK) を搭載すること (RHEL9 であるため 17 を想定) ② Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ③ PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

4.2.3. 認定データベース運用保守用サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	認定 DB の運用保守サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 25 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	565GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	① Microsoft SQL Server 2022 を搭載すること ② java (Red Hat サポートの OpenJDK) を搭載すること (RHEL9 であるため 17 を想定) ③ Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

4.2.4. 認定申請審査システム保守用 Web/AP/DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	認定申請審査業務システムの保守用 AP/DB サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 25 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	114GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② java (Red Hat サポートの OpenJDK) を搭載すること (RHEL9 であるため 17 を想定) ③ Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ④ PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5. 化学物質管理センター用仮想サーバ

5.1 外部公開サーバセグメント

5.1.1. J-CHECK 公開用 WEB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	J-CHECK 公開用 WEB サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 200 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	800GB 以上を割り当てられること J-CHECK 用サーバの共用領域として 200GB 以上割り当てられること。
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Perl を搭載すること (RHEL9 であるため 5.32 を想定) ② X Window System を搭載し CUI 環境で起動すること
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5.1.2. PRTR 行政用 AP サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	PRTR AP サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 100 相当以上を割り当てられること コア数は 2 個以上で割り当てること
イ メモリ	32GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	① 400GB 以上を割り当てられること ② PRTR 関連サーバの共用データ領域として 500GB 以上を割り当て可能なこと
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応)を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5.1.3. PRTR 事業者用 AP サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	PRTR AP サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 100 相当以上を割り当てられること コア数は 2 個以上で割り当てること
イ メモリ	32GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	① 400GB 以上を割り当てられること ② PRTR 関連サーバの共用データ領域として 500GB 以上を割り当て可能なこと
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応)を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5.1.4. PRTR 届出作成支援システム AP/DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	PRTR 届出作成支援システム AP・DB サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 100 相当以上を割り当てられること コア数は 2 個以上で割り当てること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	① 400GB 以上を割り当てられること ② PRTR 関連サーバの共用データ領域として 500GB 以上を割り当て可能なこと
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5.2 一般サーバセグメントプール

5.2.1. J-CHECK 公開用 DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	J-CHECK 公開用 DB サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 200 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	500GB 以上を割り当てられること J-CHECK 用サーバの共用領域として 200GB 以上割り当てられること。
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5.2.2. J-CHECK イントラ用サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	J-CHECK イントラ用サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 200 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	24GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	500GB 以上を割り当てられること J-CHECK 用サーバの共用領域として 200GB 以上割り当てられること。
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Perl を搭載すること (RHEL9 であるため 5.32 を想定) ② X Window System を搭載し CUI 環境で起動すること ③ Postfix を搭載すること
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5.2.3. PRTR DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	PRTR DB サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 400 相当以上を割り当てられること コア数は 16～32 個で割り当てること
イ メモリ	32GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	① 700GB 以上を割り当てられること ② PRTR 関連サーバの共用データ領域として 500GB 以上を割り当て可能なこと
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5.2.4. PRTR 問い合わせ対応用 AP サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	PRTR 問い合わせ対応用 AP サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 100 相当以上を割り当てられること コア数は 2 個以上で割り当てること
イ メモリ	32GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	① 600GB 以上を割り当てられること ② PRTR 関連サーバの共用データ領域として 500GB 以上を割り当て可能なこと
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応)を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5.2.5. PRTR 問い合わせ対応用 DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	PRTR 問い合わせ対応用 DB サーバとして使用する ※当サーバはオンプレミス環境に配置すること
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 400 相当以上を割り当てられること コア数は 16～32 個程度で割り当てること
イ メモリ	32GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	① 800GB 以上を割り当てられること ② PRTR 関連サーバの共用データ領域として 500GB 以上を割り当て可能なこと
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

5.2.6. 内容照会用サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	内容照会用のサーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 100 相当以上を割り当てられること コア数は 4 個以上で割り当てること（1 コア当たりの SPECint_rate2006 は 25 相当以上とすること）
イ メモリ	32GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	① 2.28TB 以上を割り当てられること うち 1TB は NITE-LAN 端末とデータをやりとりできる共有フォルダ（ドライブ）として割り当てること。 なお、当該共有フォルダへのアクセスの際は NITE-LAN の認証と連携し、NITE-LAN 端末にログイン済みのリスク管理課の NITE-LAN ユーザでパスワードの入力なしでアクセスできること。 ② PRTR 関連サーバの共用データ領域として 500GB 以上を割り当て可能なこと ③ 5.2.3. PRTR DB サーバと ODBC 接続が可能なこと
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム（OS）	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	Microsoft SQL Server 2022 を導入すること （ユーザ数は 30 とする）
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	（特になし）

5.2.7. 3 省 DB（内部版）用サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	「3 省 DB（内部版）」として内部処理用のサーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 600 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	32GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	2.5TB 以上を割り当てられること データ及びログのバックアップの領域として、3TB を割り当てられること（当該領域は、事務用 PC からアクセスできること）
エ インターフェイス等	1Gbps、2 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム（OS）	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	① PostgreSQL を搭載すること（15 系を想定） ② Microsoft IIS を稼働させること ③ .NET Framework を稼働させること
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	（特になし）

5.2.8. その他業務用サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	鍵管理システム仮想端末用サーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 50 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	4GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	100GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows クライアント OS を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	(特になし)
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

6. 国際評価技術本部用仮想サーバ

6.1 外部公開サーバセグメント

6.1.1. 詳報公表システム用 AP サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	電気関係報告規則第 3 条に基づく事故報告の分析の結果を公表するサーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 25 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	72GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ③ PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ④ java (JDK) (Red Hat サポートの OpenJDK) を搭載すること (RHEL9 であるため 17 を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

6.1.2. 詳報作成支援システム用 AP サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	電気関係報告規則第 3 条に基づく事故報告の作成を行うアプリケーションサーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 25 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	82GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ③ PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ④ PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	① マルウェア対策ソフトを導入すること ② 改ざん検知対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

6.1.3. 詳報管理システム用 AP サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	電気関係報告規則第 3 条に基づく事故報告の内容を保管するサーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 25 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	387GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① Apache を搭載すること (RHEL9 であるため 2.4 系を想定) ② Tomcat を搭載すること (RHEL9 であるため 9.0 系を想定) ③ PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ④ java (JDK) (Red Hat サポートの OpenJDK) を搭載すること (RHEL9 であるため 17 を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

6.2 一般サーバセグメントプール

6.2.1. 詳報管理システム用 DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	電気関係報告規則第 3 条に基づく事故報告の内容を保管するサーバとして使用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 25 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	8GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	① 117GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Red Hat Enterprise Linux 9 (64bit 対応) を搭載すること
イ ミドルウェア	① PHP を搭載すること (RHEL9 であるため 8.0 系を想定) ② PostgreSQL を搭載すること (RHEL9 であるため 13 系を想定)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼働監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼働中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)

6.2.2. 事故実機調査システム用 AP/DB サーバ

項 目	内 容
a. 機能	
用途	外部機関より依頼を受けた事故実機調査にて取得した電子データの内容を保存するサーバとして利用する
b. ハードウェア	
ア CPU	SPECint_rate2006 が 75 相当以上を割り当てられること
イ メモリ	16GB 以上のメモリを割り当てられること
ウ ディスク容量	① 200GB 以上を割り当てられること ② その他のデータ領域として 100GB 以上を割り当てられること
エ インターフェイス等	1Gbps、1 ポート以上の論理帯域を割り当てること
c. ソフトウェア	
ア オペレーティングシステム (OS)	Windows Server 2022 を搭載すること
イ ミドルウェア	(特になし)
ウ 運用管理ソフト	① 運用管理ソフトを導入すること ② 運用管理サーバと連携して障害監視、稼動監視、ネットワーク監視機能を実現するために必要なソフトウェアであること ③ システム稼動中に生成されるシステムログ、アプリケーションログなどを定期的に収集し、ログ管理サーバへ転送可能なこと
エ セキュリティ対策ソフト	マルウェア対策ソフトを導入すること
オ 電源管理ソフト	(特になし)